

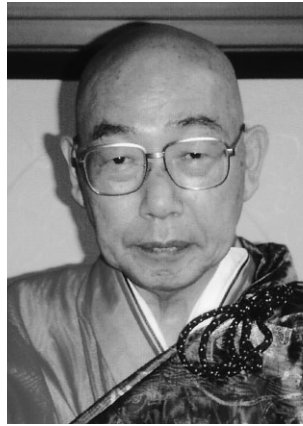
東光寺報

●編集・発行
曹洞宗 東光寺
☎359-0012
所沢市坂之下383番地
TEL/04-2944-3531
FAX/04-2945-2408

お釈迦さまの教えより

東光寺兼務住職

松永全隆



説かれました。限らない努力は真実の自己を見出し出す時でも有ります。そこから明るい人生も生れ育って行くことになりす。苦しみの中にこそたしか喜びが潜んでいるのです。大事な機会を失わないようにしましょう。

お釈迦さまは多くの厳しい修業を経験しました。而し納得の行く結論は出ませんでした。

ある時、今迄の修業を離れてニレン禅河という河の辺りの菩提樹の下で坐禅修業に入られました。孤独と誘惑の多い修業を続けられ、十二月八日の明けの明星の輝く頃、遂に悟りを開かれました。おとし三十五才の時でありました。それから八十才に至るまで尊い教えを説かれ、国中を歩かれ、説法行脚にあけられました。その教えを今でも私達は心の糧として信仰しているのです。

お釈迦さまは私達に精進努力を説かれています。物事どんなことでも最後までやり遂げよという教えです。誰もがかかえている心の悩み苦しみを迷いのり越え、目標に向って進んで行つて下さいと励ましておられます。身近な所には、生老病死の四つの苦しみが牙をむいて待ち構えています。そのうしろには、百八もの煩惱の嵐が吹き荒れています。このような多くの苦難の中で、私達はどのような心がけを持ち対処してゆくべきなのでしょう。お釈迦さまはこのような時にも精進努力と

東光寺の近況

檀徒会会長

内田久雄



檀徒の皆さま、御健勝の事と拝察申し上げます。光陰矢の如しと申しますが、一年は誠に早いものです。昨年もいろいろ御報告を申し上げましたが、本年も又次の様な御報告をさせて頂き

ます。本堂を見守って下さる十六羅漢像の襖を二十名の皆様の御灯明料で大修繕を致し、それが見事に立派になり、東光寺が見違える程になりました。御奉納下されました皆々様に心より御礼申し上げます。次に本堂の前にこれ又立派な石灯籠一対が御奉納されました。これは、木下公夫様の心より御寄贈下されたもので御座居ます。東光寺をお参りの方々は、しばらく祈り続けて居ります。木下様、誠にありがとうございます。

東光寺もいろいろな面で変わりつつあります。墓地もだんだんと奇麗になります。又永い間、植木の手入れ等は、諸星造園様がなされて居りましたが、近年は当地の木下造園様に御厄介になる様になりました。諸星造園様、永い間大変な御努力、ご苦勞様でございました。心より御礼申し上げます。

こうして、年毎に年毎に東光寺も立派になって行く様です。檀家の皆様もどうぞ御健在で、東光寺の為お尽く下されます様、切にお願い申し上げます。役員一同も若き俊成和尚様を中心と致し東光寺をより立てて参る所存で御座居ります。今後も宜しく御指導御協力をお願い申し上げます。

